

誕生

【子どもは教師から認められたいと願っているのだろう。「私ことをちゃんと見て」というサインをいつも出している。それにきちんと応えているだろうかと、常に自問したい】

中学3年生の担任をしている時に、生徒に学級一人一人の仲間のよいところを書く時間をとり、それを本人に渡した。A4の紙に書いたものを、本人の所を切り取って短冊にしたものであった。

10年も経った時であったと思う。久しぶりにKさんに会った。Kさんはその短冊を大事そうに持ってきたのである。

「先生、これ覚えてる？ 私、これずっと大切にしてきたんです」

と、短冊を私の前に差し出した。

卒業して10年、彼女は彼女なりの時を過ごしてきたのだろう。そして、時折々に短冊を取り出しては読み返し、前に進んできたのだろう。その短冊はそういう姿をしていた。Kさんにとっては、友だちに自分のよいところ書いてもらった短冊が宝物になっているのだ。

私には、特に印象に残っている一つの授業がある。

中学3年生の道徳の授業である。担任のY先生は、一人一人の生徒に語りかけていく。それは、Y先生から生徒への「あなたが今ここにいてくれてありがとう」のメッセージである。授業の開始時ざわついていた教室は、Y先生の語りが進むにつれ静まり返り、温かな空気に包まれていった。次の日、ある生徒が生活ノートに次のように書いてきた。

「先生が一人一人の写真を写しながら、『ありがとう』をたくさん言っていました。私は『いつも戦っている』とか言われて、よく見てるなあ、と思いました。少し泣きそうになりました。私も先生へありがとうを言おうと思います。いつも私が悩んでいる時に声をかけてくれてありがとう。自分で気づくまで待っていてくれてありがとう。いつも笑顔でいてくれてありがとう。いつも我慢してくれてありがとう。ごめんなさい。先生に対して、まだまだたくさんあります。ありがとう」

Y先生はただひと言「泣ける」と返事を書いた。

この授業では、「私 いつでもあなたに言う 生まれてくれWelcome」と歌いあげる中島みゆきの「誕生」という曲がBGMとして流がされた。

一人一人の子どもに「生まれてくれてWelcome」とメッセージを送り続けることが教師の仕事なのだと、KさんとY先生は教えてくれた。